



図書館だより

図書館本館 (広見) ☎0111 5120
帷子分館 ☎0111 8530
桜ヶ丘分館 ☎0111 3473

開館時間 本館 火～金 午前10時～午後7時
土日祝 午前10時～午後5時
帷子・桜ヶ丘分館 午前9時～午後5時

※本館は8月27日(木)まで、午前9時30分まで開館します。

休館日 本館・分館共通
毎週月曜日、28日(金)

※桜ヶ丘分館は、1日(土)は臨時休館します。

学習室使用について

8月5日(水)は行事のため、学習室を使用できません。

展示のご案内(本館)

「Bright color」展(可児高等学校)
期間 8月27日(木)まで
可児高校について紹介します。普段分からない可児高生の生活について知ることができます。
「認知症の方が住み慣れた地域で暮らしていくために」展(高齢福祉課)
「命を守る図書展～3万分の1の命と向き合う～」(福祉課)
期間 8月29日(土)～9月24日(木)

かにっ子タイム

毎週土曜日午後2時から行います。
○ストーリーテリング
日時 8月29日(土)
場所 図書館本館3階 会議室
語り手 おはなしの泉
本や紙芝居を使わない語り聞かせです。大人も子どもも、自由に想像して楽しむことができます。

新しく入った本

「ティーンズ・エッジ・ロックンロール」
熊谷達也 / 著 (実業之日本社)
「東京藝大物語」
茂木健一郎 / 著 (講談社)
「私たちのしごと 障害者雇用の現場から」
小山博孝 / 著 (岩波書店)
「ごみと日本人」
稲村光郎 / 著 (ミネルヴァ書房)

「わらう」
浜田桂子 / 作 (福音館書店)
「ガザ 戦争しか知らない子どもたち」
清田明宏 / 著 (ポプラ社)
「わすれものの森」
岡田淳 / 作
浦川良治 / 作 (BL出版)

【児童書】

イベント掲載申し込み 随時受付中!

KANICITY X 365days
イベントカレンダー

今日はどこに行く?



可児市ふるさと広報大使
塚本明里さん

可児 イベント 365 検索

市のイベントに限らず、民間事業者や各種団体が主催するイベントも掲載しています。

広報番組のお知らせ

ケーブルテレビ可児で

いきいきマイタウン

8/1(土)～7(金)
ようこそ!市長室へ
8/8(土)～14(金)
荒川豊蔵人間国宝認定60年記念展
8/15(土)～21(金)
好きなのはカニダー
8/22(土)～28(金)
簡単!山ごはんレシピ、Kルートで行こう!
8/29(土)～9/4(金)
驚き満載!美濃金山城の魅力

放送時刻 月～金曜日 7:00・12:00・17:00・19:00・21:00
土・日曜日 7:00・12:00・19:00・21:00

FM5らで

可児市役所からこんにちは

8/6(木) 11:20～
ようこそ!市長室へ
8/13(木) 11:20～
驚き満載!美濃金山城の魅力
8/20(木) 8/27(木) 11:20～
可児市ふるさと広報大使
塚本明里の「あかり話」

おはよう可児市役所

月～金曜日 8:00～

発見!可児の魅力

毎週土曜日 10:00～

もう一度確認を!災害時の情報収集

すぐメールかに

あらかじめ登録した携帯電話などのメールアドレスに、災害や気象に関する情報を配信します。そのほか、暮らしに役立つ市政情報も配信しています。

登録方法はコチラ



「防災無線」電話で確認サービス

専用電話番号 ☎0574 021548

防災無線で放送された内容を放送後に電話で確認することができます。

※通話料金が必要です。
※防災無線放送後、24時間経過すると消去されます。



加藤源十郎景成の石碑

聖地の父・源十郎景成の回想

加藤源十郎景成と申します。今日は、祖父源十郎景成や父五郎右衛門景豊から聞き及んでおります。我が加藤一族の大きな転機についてお話しいたします。

我が一族は、代々、尾張国で瀬戸

物と呼ばれる陶器を独自の焼いておりました。しかし、永祿の頃には、長く隆盛を極めてきた瀬戸の窯場の山は、焚木の伐採によって荒れ、業を続けるためには、どこかへ移転するほかない状態でした。我々は、尾張どの境に程近い可児や土岐の山中に窯場を求め、美濃金山城主の森様を仲介に、信長様へ窯場移転の嘆願書をお出ししたのでした。それは信長様の元へ届き、評議が行われました。その頃の信長様は、延暦寺の焼き打ちや石山本願寺との戦などにおいて、ことごとく側近の進言を却下し、我が道を行かれておりました。信長様は、「物資の流通や管理、経済のためにも尾張の中で適地を探すべき」と仰せました。しかし、側近の光秀様

や森様の強い説得により、最終的にこの嘆願をお認めくださったのでした。信長様は、一族への条件を千利休殿と相談し、「ただし、今までの唐物の写しではなく、この国にしかない私好みの茶陶器を創れ」と強く釘を刺されました。我が一族は、信長様の御朱印状と御下命を抱え、天正の頃からそれぞれ土地へ移って行きました。それからしばらくして、久々利大平へ移った父景豊や父景成で窯を開いた叔父景光らから、信長様の元へいくつもの茶陶器が届けられます。



瀬戸黒茶碗
16世紀末
(可児郷土歴史館蔵)



志野山景色四方向付
16世紀末～17世紀初
(可児郷土歴史館蔵)

した。上品な黄肌にすっと立ち薄く華やかな鉢、どっしりと座り吸い込まれるような漆黒の茶碗。初めて目にする器の清楚と豪放の両極端に、信長様は大変ご満悦の様子だったとのこと。信長様がお亡くなりになった本能寺の変の後、最終的に久々利大平へ落ち着いた私も、恐れながらも、利休殿の後に茶頭となられた古田織部殿の元へ、茶陶器をお届けいたしました。雪のように透き通る肌、口縁がうねり凛々しく立つ茶碗。それまでの唐物の常識を完全に打ち破る姿に、織部殿も大喜びなされたようです。



※土曜写真の場所は、現在立ち入り禁止です。